

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 18 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25289205

研究課題名(和文) 動的オーセンティシティ発現構造の4次元把握・可視化法による文化的景観保全計画

研究課題名(英文) Evolutional Conservation Planning for Cultural Landscapes with Dynamic Authenticity to be illustrated at 4-dimension-perception and its visualization

研究代表者

神吉 紀世子 (KANKI, Kiyoko)

京都大学・工学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号：70243061

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,400,000円

研究成果の概要(和文)：ある姿を固定的に維持するのではなく、地域がもつ特徴を受け継ぐ方向で変化することを想定した「進化的保全」が文化的景観には必須である。そのため本研究は「動的オーセンティシティ」という真実性概念を提唱し、保全が要請されている事例地で具体的にオーセンティシティをどのように理解し、景観の構成にどのように現れているかを可視化する方法、さらにこれに見合う計画システムのあり方を研究した。景観を、空間的構成が時間経過とともに進化する対象として理解するため、4次元の発現構造であることを強く意識し、地学・生物学的理解から地域づくりで重視される多角的な価値を、広域と集落スケールを統合的に扱う方法を提示した。

研究成果の概要(英文)：It is essential to recognize the evolution - transformation suitable to local contexts - for the conservation of cultural landscapes. We introduced the idea of 'Dynamic Authenticity' to explain the evolutional conservation available in the conservation areas, and this research made the case surveys and proposals of how to understand and illustrate such authenticity in the temporal and spacial - namely 4 dimension - composition of landscape. In the case areas we found the multi-disciplinary value systems through scientific research (Geology, Biology, etc.) as well as local community's activities, and those had shown the necessity to activate the integrated planning for the vast regional scaled planning including small local community-scaled planning. Field school activity with these ideas were identified as 'Planning of Dynamism' in the international conference, and regional planning system made up with collective local entities is shown as the model.

研究分野：都市計画・農村計画・景観計画

 キーワード：文化的景観 動的オーセンティシティ フィールドスクール 広域計画 集落 生態 ポロブドゥール
日根荘大木

1. 研究開始当初の背景

国内外の景観保全制度に関する研究は数多く行われ、国内では景観法の施行後、自治体での景観計画制度の導入実績に関する研究も多く行われてきた。そのなかで、建築物の形態・意匠の制限などの計画的施行が議論される一方、景観保全とはある姿を固定的に維持するのではなく、その地域がもつ特徴や履歴を受け継ぐ方向で進化することを想定すべきであるという議論がある。例えば、近代以前の伝統的建築物を保存し続けるだけではなく、伝統を受け継ぐ平成時代の優れた建築物を開発しなければ 22 世紀にむけての文化遺産を生み出すことができない、等の議論がこれにあたる。しかし、変化を許容するという方針は、伝統にそぐわない変化を回避できず景観破壊につながる恐れもある。従って、変化をどのように評価するかの方法論をマネジメントに組み込む必要が生じる。そこで本研究は「動的オーセンティシティ (Dynamic Authenticity)」という概念を導入している。景観における変化が地域性を受け継ぐかたちでおこり、核となる価値を失うのではなく進化させる方向にあるか、変化の評価を包含した「真実性」のことである。とりわけ「文化的景観」は人間の生活・生業と自然・風土の関係性において形成される景観であり変化を包含した評価と保全策が必須である。

2. 研究の目的

景観の実体の上で動的オーセンティシティを認知し描出するには、(立体)空間的な景観の時間軸上での変化をみることになり 4 次元での把握が必須である。そこに、景観を評価するための多角的な価値を見出すこと、そのためにも地域のコミュニティ内で比較的良好に共有され得る価値の形成履歴を再評価すること、共有化前段階から個人が潜在的にもつ景観認知構造が、描出把握・可視化を通じて洗練されることで、コミュニティでの共有化認知と本人的認知を統合した未来への指針が、その個人にも獲得されるものと考えられていた。そこで、そうした多角的な価値の把握と 4 次元での景観把握、その両者の対応関係について「動的オーセンティシティ発現構造の 4 次元把握・可視化」によって、実際的な保全計画 (Planning) を構想することを、本研究の目的とした。

3. 研究の方法

まず、テーマの異なる文化的景観の複数の事例地 (国内・国外) において、事例地での調査とその結果の地域コミュニティ等への提示とフィードバックを通じて、実際的に、価値の把握、その価値にみあう景観の動的オーセンティシティの把握・可視化のあり方について検討し、具体的に有用な計画を構想することで研究を進めることとした。事例地としては、本研究の以前より科研費研究として

継続的に地域とのやりとりがあり準備状況がよい インドネシア・ボロブドゥール地方の農村地域 (ボロブドゥール寺院遺跡のみが世界文化遺産)、同様の国内事例として 大阪府泉佐野市大木地区 (国選定重要文化的景観)、新たに社会主義時代に都市縁辺部に住宅地開発が広範に行われその住環境評価が近年注目され始めている チェコ・プラハ 11 区のプレハブ住宅開発地、風光明媚で自然環境の特徴がより重視される景観として 京都府京丹後市沿岸地域、盛衰を経験し近代遺産との共存的進化に取り組み広大な地域である ドイツ・ルール工業地域、において成果を得る段階まで進捗をみる事ができた。

さらに、これらの事例地での成果を踏まえて、改めて「動的オーセンティシティ」という概念の内容とそれにもとづく文化的景観の保全計画 (Planning) の可能性について、国際的な議論の場で検討を深めるように努めることとした。これについては、複数の国際学会等においてディスカッションの機会に参加することで議論の場を得た。

4. 研究成果

(1) 事例研究

インドネシア・ボロブドゥール周辺の農村地域): 地質・地理・生活文化からみる Kedu 盆地の広域景観へのコミュニティからの景観価値体系とボロブドゥール寺院遺跡群の相対化

仏教寺院遺跡であるボロブドゥール寺院の境内地のみが世界遺産に登録され、そこに隣接して観光開発集中が生じ景観破壊問題が生じたことのあるこの事例地では、ガジャマダ大学 (Univ. of Gadjah Mada) と京都大学等の共催による 1 週間の滞在型集中セミナーである「国際フィールドスクール」を 1 ~ 2 年に 1 回の頻度で開催している。本研究もこのスクール活動を活用して行った。スクールに貢献する講師は、地学・地理学・建築学・都市計画学の研究者、伝統的な集落コミュニティ組織、地域の各種非営利団体 (語り部ガイド、伝統的な馬車によるツアー組織、集落観光の組合、写真家、芸術家) であり、それぞれの学術調査あるいは地域づくり実践の実績をもとに検討することとした。なお、スクールの経過と上記の講師による文化的景観の解説は、この間、別途科学研究費研究成果公開促進費の支援により「Borobudur as Cultural Landscape」のタイトルで英語書籍として出版している。

ボロブドゥール寺院遺跡は Progo 川の近傍の小丘上にあり世界遺産ではこれを中心に同心円状の景観保全地区のプランを描くが、文化的景観としてのボロブドゥールは、南北 40km 以上東西 30km 以上にもなる 3000m 級の高さを擁する広大な Kedu 盆地を基盤とすることが、地質学・地理学・コミュニティ・芸術家から共通して提唱される。とくに地質学からは地学的時間スケールにおけるこの盆

地の生成過程の研究が進みポロブドゥール寺院周辺が太古の湖の存在を示す地層と地形、湿地帯（現在は水田となっている）の存在から特徴づけられ、結果として寺院が蓮の花を模していると言われるストーリーが現代の水田利用とあわせて眺める景観としてのイメージと矛盾しない点が興味深く示された。地理学においても GIS 分析により Progo 川両岸における地質の違いと土地利用の違い、水資源の豊富さの違いによる観光開発の規制の必要性が指摘され、一方、コミュニティ・芸術家からは、盆地をとりまく5つの高山が地域の歳時記に根付く場所をもつ点や、農村地域の地域づくりを一体感をもって進める内発的活動が存在し、各集落の民俗舞踊等が集合して開催する催しにこの5山がシンボルとなって定着している経緯や、近年の非営利組織による魅力創出も Kedu 盆地の特徴にそったものである。一方、ミクロスケールの集落単位では生業や観光開発への応答は異なり、建築学や多くの非営利団体からは集落ごとの個性が強調される。この10年、集落による生業・民俗文化・祭礼等、さらに仏教寺院に留まらず歴史上の多種の信仰文化の遺跡群の再評価が地域づくりとして取り組まれ、非営利組織が促進しているグリーンツーリズムは、活用・支援している。これら価値評価はポロブドゥール寺院遺跡を中心には絶対視するのではなく、Kedu 盆地の過去から現代までの特徴において理解しなおし遺産3寺院と集落の関係を統合する。これらから広域と集落スケールを包含する発現構造を説明できた。

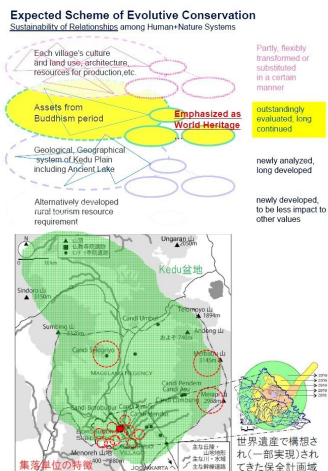


図1 Kedu 盆地と集落からなる動的オーセンシティ発現構造概要

大阪府泉佐野市大木地区

国内の重要文化的景観選定地（文化財）である本事例は、研究代表者も関わって選定時の真実性を、中世荘園時代に由来する河岸段丘地形・農業用水利と受益地農地の地理的位置・史跡となっている社寺等とし、現景観の大半を構成する民家・公共施設等の建築物や多様な農作物・山林植生、さらに民家群の変化傾向（母屋は変化が少なく附属屋は変化が激しい）の特徴は景観届出（景観法）に関連するものとして、大きく2つの価値に分けて捉えていた。選定後、現地では「大木まちづくり協議会」が発足し、これに参加する形で分析検討を進めた。

2つの価値をわかりやすく可視化するように、中世荘園時代由来と近世近代現代由来のとそれぞれの構成資産が眺望の中にどのよ

うに位置するかを示すガイドツールとして、様々な検討の結果、この研究期間内に急速に使いやすくなった全方位カメラ写真の画像を活用した方法を採用した。全方位を眺められる空間認知の中に画像の編集により中世由来、近世・近代由来、現代地域づくりの時代のことなる価値ある資産の存在を示すことが容易に作業でき、かつWEB上への掲載も容易であるためである。今後逐次WEB上に公開していく予定である。

まちづくり協議会への参与研究では、重要文化的景観選定後の地域づくりと

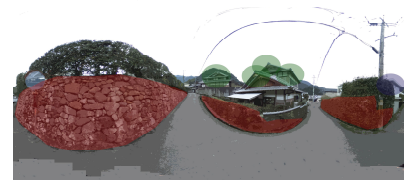


図2 全方位画像による発言構造図示

して、i. コスモス園の開園、ii. 個人によるギャラリー開設、iii. 地区内小学校（小規模特認校）の学習と関係者交流、が注目された。i は地区内外の人々から昭和後期に毎年行われていたコスモス園の小規模な再生と見なされ好評であり中世由来ではなく近代以降とりわけ現代の価値の中で評価されている。ii は近代以降の民家群のなかで可変性をもつ役割にある附属屋建物を用いて開催されておりこの特徴に即している。iii は2種の価値をどちらもよく扱っている。さらに、小規模校ではあるが一定の入学希望者を継続的に得て教育への評価も良好であり、景観の持続の前提である地域社会の持続の要として認識されていることがわかった。以上より、大木地区の発現構造は追記しやすい全方位画像に選定時の価値評価とその後の地域づくりが位置づけられる価値評価を統合して示していくこととした。

チェコ・プラハ市11区

チェコ共和国をはじめ東欧諸国では社会主義時代に都市縁辺部に大規模なプレハブ（パネル構法）の集合住宅開発地が立地した。その後民主化を経て、住宅は私有・組合有・市有等が混じるようになり様々な変化が生じている。数年前までこれらの住宅開発地は標準化された住宅による単調で一般的イメージがよいとは言えない地区と評されていたが急速にその価値の見直しが進んでいる。都市郊外に広がる大きな社会変動を経験する中で移り変わる環境と居住者による評価の構造を文化的景観における動的オーセンシティの観点から捉えることとした。

プラハ市11区はイジュニー・ムニェスト地区という同市最大規模の住宅開発地があり、11区役所によって住棟の改修事業や公園緑地整備、地域コミュニティ活性化等が継続的に取り組まれている事例で区役所の施策意図とその効果の調査、居住者への直接インタビュー、公開ワークショップ等により地域評価を調査した。また開発計画立案当初からの計画図およびその論評が掲載された雑誌

記事等が入手でき社会主義時代から現代までの評価の変遷を捉えることができた。

その結果、コンベにより意欲的に設計された開発計画が社会主義時代の様々な変動の中で大きく設計変更を繰り返し単調化した経過、プレハブ住宅の竣工の早さに比べ公園緑地整備が大幅に遅れ評価を下げた可能性、公共施設群は当初より比較的好評であったこと、民主化後 11 区役所が開発当初以来の整備意図を引継ぎ緑地等の重要な整備は近年完成したという認識が成り立つことがわかった。この経過に対する各居住者の具体的な地区評価は図のように、広く比較的単調な佇まいの住宅開発地の各所に異なる価値評価の対象が発見されている構造が判明した。社会主義時代から民主化後へと現代にあって時間経過の意味が重い住宅地の事例を文化的景観とみなして動的オーセンティシティを考察することが地区の価値説明によく適応できることを示すことができた。

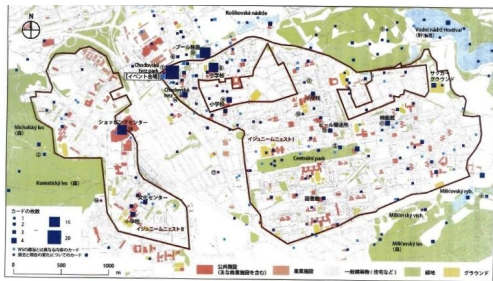


図3 公開居住者「アンケート」での魅力の指摘分布

京都府京丹後市沿岸地域

これまで日本の自然海岸は大幅に消失し、現存する地域は海浜景観復元や生態システム回復のための情報・遺伝資源を保持する場所、アジア・オセアニアの温帯乾燥地における生物進化研究のためにも一段と重要性を高めている。ここでは「鳴き砂」で知られ国定公園・天然記念物・名勝等に指定されている京丹後市琴引浜を擁する海浜をとりあげた。著名な地域ながら動物相および生態システムに関する知見は少なく、保全に資する情報が十分ではないことが問題視されてきた。海浜植物にとって重要な花粉媒介者で、節足動物を餌資源とする高次消費者でもある有剣ハチ類に着目し、琴引浜の波打部から砂丘にかけての多様な植物の特徴的な群落に関わってこれらハチ類が景観形成と維持に関与し、海浜砂質や砂丘地形を性格づける指標になっていると見なされる。

調査の結果、琴引浜での有剣ハチ類は 58 種が記録できた。これは既往の兵庫県豊岡市気比の浜と香住町浜安木、宮城県蒲生干潟砂丘、島根県大社砂丘等の研究と比較して断定はできないものの有剣ハチ類の種多様性の点で有数の豊かさを保持していると考えられる。海浜生息種、準海浜生息種、海浜外生息種別にみると、琴引浜は海浜生息種が 12 種確認され、その種数が多い場所であると判明し、準海浜生息種の構成比率が既往研究等にある他所よりも低い傾向があった。とくに、

海浜植物送粉者として注目すべき優占種 3 種、オオモンツチバチ、シモフリチビコハナバチ、キヌゲハキリバチが記録され、特徴をより詳細に把握すれば、浜の自然景観の保全に関する重要指標となる。以上より自然景観・名勝として保全されてきた文化的景観に関して昆虫相から地形や植物種の評価の具体的なあり方が可能性を得



図4 コウベキヌゲハキリバチ (図書)

られ、砂丘や土地利用のもつバリアの役割など保全上の重要性が見出される事例となった。これは歴史や地誌的立地をよく反映した特定の生物系統群とその存続基盤となる自然資源や人の行為を見定め、環境変動の進化的(景観)安定性を判断する方法として可能性がある。

ルール工業地域

ルール地域は、世界的に著名な広域にわたる工業地域であり、同地域が位置するノルトライン・ヴェストファーレン州の空間計画システムにおける計画単位に合致しない範囲に広がる。多様性を内在しつつひとまとまりの地域性を有するルール地域の試みは、これをどのように制度的に計画対象とするか、また、各地区の実態にあった取組みを共存させつつひとまとまりの地域としてのアイデンティティに対応する計画地域とするにはどうするか、という計画方法論を扱う事例である。この知見は、ポロブドゥールを始め、必ずしも行政的区分に閉じない文化的景観の保全を実体化する取組みを扱っていく上で重要な論点である。

ルール地域の広域計画 (Regionalplan) の策定過程の調査から、地域のまとまりの認知と計画区域の合意、地域主体の形成、基礎自治体の議決により実効性を担保する各種インフォーマルプランの積み重ね、地域レベルの多様な対話のデザインの試みによる新たな課題の認識を共有する機会の創出の 4 点が、近代の工業地域という文脈を共有する多様な地区のまとまりである広域の計画を進めるうえで求められたことを確認した。

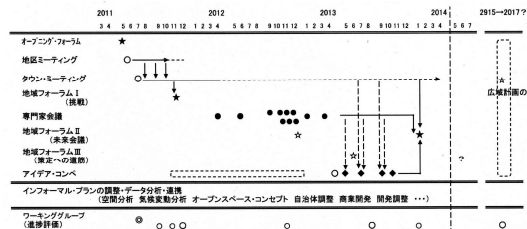


図5 ルール地域 Regionalplan の策定プロセス (論文)

(2) 総括 “Planning of Dynamism”

以上の事例研究をもとに、「異なる時代に由来する価値の発見」、「それらが地理的空間

的に認識され得る場所や空間の提示」,「価値と場所・空間の複雑な構成をひとまとまりに捉え経験しながら地域づくりを考える機会であるフィールドスクールの活動スタイル」の3点から文化的景観の動的オーセンティシティの発現構造を複数の国際会議で提案した。これに対してとくにブダペストの会議においてこの取り組みは、計画学(Planning)の中での新規性として「Planning of Dynamism」と表すべきとの総括を得、計画方法論として一定の新規性を認められたと考えている。事例研究とそのまとめが一定の成果水準に達したと確認をすることができた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計11件)

田中由乃、神吉紀世子、社会主義時代に開発された住宅地のプラハ市行政による再生施策の特色 - プラハ市行政とプラハ 11、13 区行政の関係性の考察を通じて -、日本都市計画学会都市計画論文集、査読有、No.48(3)、2013 年、pp.309-314

田中由乃、神吉紀世子、プラハ市において社会主義時代に開発された大規模住宅開発地の価値の形成過程に関する研究 - プラハ市 11 区ホドフ・ハーイエ地域での住民インタビューを通じて -、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無、2014 年度 F.都市計画、2014 年、pp. 463-464

増田倫士郎、江種伸之、中尾史郎、エサキアメンボの和歌山県紀の川市および京都府精華町における生息場所とその利用、京都府立大学学術報告 生命環境学、査読無、25 巻、2013 年、pp.39-51

中尾史郎、増田倫士郎、エサキアメンボの飛翔性、昆虫と自然、査読無、49(2)巻、2014 年、pp.4-8

小浦久子、持続可能な地域の未来のために - 地域の風景を語り伝える、奈良文化財研究所研究報告、査読無、第 13 冊、2014 年、pp.47-52

田中由乃、神吉紀世子、プラハ市において社会主義時代に形成された住宅開発地の再価値化に関する研究 - プラハ市 11 区イジュニームニェストを事例として -、日本建築学会計画系論文集、査読有、No.709、2015 年、pp.631-640

小浦久子、小林正美、地域計画の空間的まとまりと計画主体についての考察 - ノルトライン・ヴェストファーレン州ルール地域の地域主体と計画ガバナンスにみる論点、日本都市計画学会都市計画論文集、査読有、No.49(3)、2014 年、pp.951-956

小浦久子、都市の文化的景観における進化的保全の可能性、日本建築学会大会 PD 資料集(農村計画部門)、査読無、2014 年、pp.25-28

小浦久子、景観価値の保全と計画、平成 25 年度遺跡整備・景観合同研究集会報告書、奈良文化財研究所、査読無、2014 年 pp.

12-19、

小浦久子、景観法が示すプランニングの可能性、都市計画、日本都市計画学会、査読有、Vol.63(3)、2014 年、pp.10-15

中尾史郎、郷右近勝夫、宮永龍一、清水晃、増田倫士郎、河村友裕、銭成晨、羽田智子、京都府琴引浜における有剣ハチ類の記録、京都府立大学学術報告・生命環境学、査読無、66 号、2014 年、pp.25-29

[学会発表](計17件)

増田倫士郎、中尾史郎、長翅単型のヤスマツアメンボの飛翔筋第二型と生活史、日本昆虫学会第 73 回大会講演要旨:69、2013 年 9 月 14~16 日、北海道大学(北海道札幌市) Kiyoko Kanki、Dynamic Authenticity of Cultural Landscape along the river - From the experiences of 2011 Kii heavy rainfall disaster in World Heritage Sites-、2014 Southern Taiwan Forum on Water Management(招待講演)(国際学会)、2014 年 4 月 29~30 日、高雄市(台湾)

神吉紀世子、まちづくりとしての文化的景観 - 人と仕組みが維持する景観、その先駆的事例、中標津町景観フォーラム(招待講演) 2014 年 12 月 5 日、中標津町総合文化会館(北海道中標津町)

中尾史郎、大迫敬義、糟谷信彦、琴引浜の動植物の分布と特色に関する研究、京都府立大学地域貢献型特別研究(ACR)成果報告(招待講演) 2015 年 3 月 14 日、琴引浜鳴き砂文化館(京都府京丹後市)

Kiyoko Kanki、Evolutive Conservation of Cultural Landscapes -Searching for the authentic ways as cultural evolution with local community -、Book Launching and Discussion、2015 年 5 月 22 日 Univ.of Gadjah Mada、23 日 Borobudur (Indonesia)

Kiyoko Kanki、Yohei Murakami、Managing Network in the *Saujana* Conservation - Learnt from Bali Internship Field School and Borobudur Field School -、TEMU PUSAKA INDONESIA / INDONESIA HERITAGE MEETING 2015 : "GEMAH RIPAH LOH JINAWI ; TATA TENTREM KERTA RAHARJA (招待講演) 2015 年 10 月 9~11 日、Bogor (Indonesia)

Kiyoko Kanki、Cultural Landscape and Field School Activity、Public Lecture in Tarumanagara University(招待講演) 2015 年 10 月 12 日、Tarumanagara University、Jakarta (Indonesia)

Kiyoko Kanki、Evolutive Conservation of Cultural Landscape with Local Community Initiatives-Field School Activities in Borobudur, Indonesia-、International Conference on Architectural History and Heritage Conservation Study(招待講演)(国際学会) 2015 年 10 月 16~17 日、湖南大学、長沙市(中国)

Kiyoko Kanki、Borobudur as Cultural

Landscape - 10 years of International Borobudur Field School Activities with Local Initiatives, Tourism and Cultural Landscapes: The UNESCO UNITWIN Network for "Culture, Tourism, Development" (国際学会) 2016年6月12~16日、Budapest (Hungary)

Yuno Tanaka, Kiyoko Kanki, Interview and community participation event about the area history for finding attractiveness of South Town in Prague, World Multidisciplinary Civil Engineering - Architecture - Urban Planning Symposium - WWCAUS 2016 (国際学会) 2016年6月13~17日、Prague (Czech Republic)

Kiyoko Kanki, Evolutive Conservation of Cultural Landscape, 8th International Field School on Borobudur Saujana Heritage (招待講演)(国際学会) 2016年3月14~20日、Borobudur Conservation Office, Borobudur (Indonesia)

Kiyoko Kanki, Saujana and Tourism - From several case activities in the conservation (and candidate) areas -, Center for Tourism Studies Morning Lecture (招待講演) 2016年3月21日、Univ. of Gadjah Mada, Center for Tourism Studies, Yogyakarta (Indonesia)

Christa Reicher, Hisako Koura, Between Strategic -Regional and Project-oriented Local Urban Design Approaches for City Regions Forum Supervisors, International Conference POLYCENTRIC CITY REGIONS IN TRANSFORMATION - The Agglomeration Ruhr in international perspective, Forum 2 (招待講演)(国際学会) 2015年6月11~13日、Essen (Germany)

小浦久子, 歴史的環境の保全と地域づくり、美しい愛知づくり講演会(招待講演) 2015年11月10日、岡崎市福祉会館(愛知県岡崎市)

小浦久子, 地域における歴史資源と地域(まち)づくり、平成27年度「歴史文化基本構想」研修会(招待講演) 2015年10月1日、文化庁

小浦久子, 工藤和美、但馬の浜に暮らす、日本建築学会農村計画委員会・農山漁村文化景観小委員会フィールドスクール(招待講演) 2015年12月4~5日、たけの観光協会(兵庫県豊岡市竹野地区)

神吉紀世子, 生きている地域資源とその魅力~向日市の歴史的風致とまちづくり~, 第8回京都府景観まちづくりフォーラム(招待講演) 2015年12月11日、向日市民会館(京都府向日市)

[図書](計4件)

中尾史郎他、京丹後市、図説京丹後市の自然環境(京丹後市の昆虫~琴引浜の砂と海

浜植物とハチの関係~) 2015年、185頁 Hisako Koura (D.Brunns ed.) Springer, 3.2 Landscape Literacy and the "Good Landscape" in Japan "In" Landscape Culture - Culturing Landscape", 2015年、235頁

小浦久子、恵谷浩子編著、奈良文化財研究所文化的景観学研究会、文化的景観スタディーズ 01 地域のみかた 文化的景観学のすすめ、2016年、95頁

Kiyoko Kanki, Laretna T. Adishakti, Titin Fatimah eds., 京都大学学術出版会、Borobudur as Cultural Landscape - Local Communities' Initiatives for the Evolutive Conservation of Pusaka Saujana BOROBUDUR -, 2015年、232頁(科学研究費研究成果公開促進費)

[産業財産権]

出願状況(計0件) 取得状況(計0件)

[その他]

ホームページ等

<https://www.facebook.com/Cultural.Landscape.AIJSUBCOM/>

(日本建築学会農村計画委員会・農山漁村文化景観小委員会が関わるフィールドスクール開催の情報発信としてFACEBOOK(原則として英語による掲載)を開設している(運営管理者=神吉紀世子))。今後もここで成果を公表していく予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

神吉紀世子 (KANKI, Kiyoko)

京都大学・大学院工学研究科・教授

研究者番号: 70243061

(2) 研究分担者

小浦久子 (KOURA, Hisako)

神戸芸術工科大学・芸術工学部・教授

研究者番号: 30243174

中尾史郎 (NAKAO, Shiro)

京都府立大学・大学院生命環境科学研究科・准教授

研究者番号: 10294307

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

ティティン・ファティマ (Titin Fatimah)

Tarumanagara University, インドネシア

ラレットナ・T・アディシャクティ

(Laretna T. Adishakti) Univ. of Gadjah

Mada, インドネシア

クリスタ・ライヒャー (Christa Reicher)

ドルトムント工科大学、ドイツ

田中由乃 (Yuno Tanaka) 日本学術振興会

特別研究員(京都大学大学院工学研究科)